

道徳通信かがわ

第19号

平成28年11月9日(水)

香川県教育委員会事務局

義務教育課

研究推進校の授業実践から(中学校)

高松市立香東中学校 授業公開日：平成28年9月21日(水)

※文中の()は内容項目

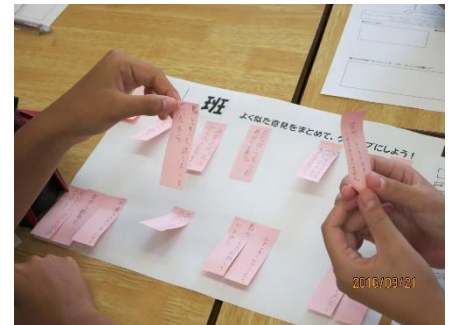
全学年で道徳授業が公開されました。■1年では「ないた赤おに」を教材に「差別や偏見のない社会の実現(公正、公平、社会正義)」を主題として、人間の持つ先入観について考えました。付箋に自分の考えを書き、それぞれのグループに持ち寄って多様な考えを整理するという学び合いの工夫が見られました。■2年では「償い」という曲の歌詞を教材にして、「誠実な生き方(自主、自律、自由と責任)」を主題に授業が行われました。交通事故を起こしてしまい、過ちを償おうとする努力を続ける加害者に、被害者の家族から手紙が届くという内容から、償うとはどういうことなのかをグループで議論しました。■3年では「よみがえった笑顔」を教材に(よりよく生きる喜び)を主題に授業が行われました。考える場面を1つに絞り、じっくりと主題に向き合わせ、話し合わせる工夫が見られました。



自分の立場をネームプレートで表示する様子

■香東中学校では、ローテーションで行う道徳授業や、体験活動を道徳授業と関連させて行うことなど、これまでの実践を継承しつつ話し合い活動を充実させ、思考力や表現力の向上に取り組んでいます。また、保護者や地域への情報発信にも力を入れ、学校だよりや道徳だより、ブログ等を通じて積極的に情報公開に努めています。

佐々木校長からは、道徳授業の充実は少なからず教師の授業力向上により効果をもたらしているというお話をうかがいました。香東中学校は、12月27日に開催される「香川の教育づくり発表会」で研究成果を発表する予定です。



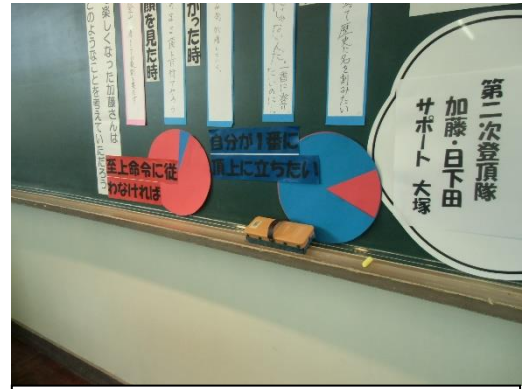
付箋を使って考えを整理する様子



坂出市立坂出中学校 授業公開日：平成28年10月25日(火)

第30回香川県中学校教育研究会道徳部会研究大会の発表校として全学年で授業が公開されました。「豊かな心を育て、ともに未来を切り拓く道徳教育―「つながり」を大切に―した道徳授業の工夫―」を研究主題として、道徳教育をすべての教育活動の核と位置付け、絆づくりに努めてきた実践を継承しつつ、指導体制の整備と他の教育活動とのつながりを意識した道徳教育の計画・実践について研究を進めています。

■1年では「気まずい時間」を教材に（自律）を主題とした授業が行われました。電車の中での携帯電話を巡るトラブルという日常で起こりうる出来事を題材にして、自分の行動を振り返って自律の意味を考える内容でした。■2年では「山に憑かれた男」を教材に（集団生活の充実）を主題とした授業が行われました。マナスル登山隊の一員が直面した「登頂したい自分の夢」と「隊の登頂成功」という心の葛藤を題材として、集団における個の役割について考えを深めていました。■3年は坂出市のふるさと教材を用いて、瀬戸大橋の建設に尽力した杉田秀夫氏の生き様から（克己と強い意志）を主題に進路学習と関連させながら自分の思いを確かめました。



心情円盤を使って考えを表現する様子



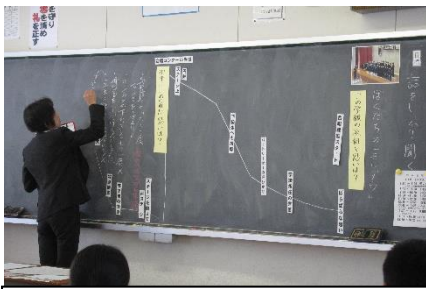
「学びの足跡」の校内掲示

■校内の目に触れやすい所には「学びの足跡」を掲示してあり、学校全体で道徳教育に取り組んでいる様子がうかがえました。当日は県内外から250名を超える参加者があり、授業についての意見交換や分科会討議が熱心に行われました。坂出中学校は、12月27日に開催される「香川の教育づくり発表会」で研究成果を発表する予定です。

三豊市観音寺市学校組合立三豊中学校

授業公開日：平成28年11月2日（水）

2年の全クラスで道徳授業が公開されました。■過去に三豊中学校で起きた合唱コンクールでの出来事を教材化したものでした。しっかり練習したはずの合唱が本番で崩壊してしまうという出来事から、よい集団とはどんな集団なのかを考える（集団生活の向上）を主題とした授業でした。



心情を曲線で表現する授業の様子

■三豊中学校の特徴は道徳授業を学年で統一して行うことです。道徳授業の立案を学年団内の輪番制で行い、T・Tで授業をします。そのために毎週決まった時間に立案者から授業者に説明し、そこで練ったものを全学級同時に行うというスタイルです。石田校長からは全教員が授業を作るという意識が定着し、授業力は確実に向上しているというお話がうかがえました。



行事における振り返りを表示

そのためにも打ち合わせの時間を固定し、20分以内で終わることを目標にすることで、無理なく続けられるということでした。また道徳を総合単元化し、行事などに関連させ、学習効果を高める取組を行っています。

■授業後の討議では、考えたくなる発問の工夫などについて議論されました。討議後に、道徳授業の指導改善について毛内嘉威教授（秋田公立美術大学）の講演があり、テーマ発問（子どもたちに考えさせたい主題についての発問）と場面発問（場面、場面での心情を聞く発問）の違いや意義等について話をいただきました。